

B 地区コア再観察結果

ボーリング	5 4 (B地区)	1 6 5 (B地区)	1 2 3 (A井戸南東 9 0 m)
コア状況写真 (埋土部)			
埋土の土質分類	GL-0～5.3m : 粘土混り砂 GL-5.3～9.0m : 細砂～中砂主体 GL-9.0～10.6m : 粗粒砂 (礫を多く混入)	GL-0～1.07m : 細砂 GL-1.07～6.05 : シルト混り砂 GL-6.05～8.65m : 細砂～中砂 GL-8.65～10.3 : シルト混り砂 GL-10.3～11.24m : 砂混りシルト	GL-0～1.23m : 表土 (砂主体) GL-1.23～3.6 : 礫混り粘土 GL-3.6～5.05m : シルト混り中砂 GL-5.05～6.66 : 中砂 GL-6.66～7.02m : 砂混り粘土
埋土の全体的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に砂質土 (細砂) を主体とする埋土。 ・GL-5.4～5.6m 付近、粘性土分が卓越し、礫が見られるものの、コンクリート様の塊は見られない。 ・GL-5.3m を境に上部では褐色を呈す粘性土分をブロック状に混入する埋土と、下部では暗灰色を呈し粘性土分の混入が少なくなる埋土に分けられる。 ・B地区で見られる埋土は、ほぼ砂質土主体の埋土ある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に砂質土 (細砂) を主体とする埋土。 ・礫が混入するが、硬質な円礫が主体。 ・最下部に見られる粘性土主体の埋土は、比較的均質で、ガラ類は混入しない。 ・この粘性土のコアは、掘削時には、異臭を放つ非常に軟弱で高含水の粘性土であった。現在は乾燥し固結した粘性土。 ・GL-6.0m を境に上部では褐色の細砂を主体とし粘性土分をブロック状に混入するが、下部では暗灰色の中砂を主体とし粘性土分の混入が少なくなる。 ・この粘性土埋土は本孔 (165) のみで確認される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上部 (GL-0～3.6m) および最下部 (GL-6.66～7.02m) は粘性土主体の埋土であり、それ以外は砂質土 (中砂) 主体の埋土である。 ・粘性土主体の埋土中には、コークス、ガラ、雑多な礫を多く含み、コンクリート様の塊も含まれている。 ・B地区の一部で見られる汚泥的な粘性土ではなく、一般的な建設残土のようなものと判断される。 ・A地区で見られる粘性土主体の埋土は、本孔のみならず比較的広範囲に亘っている。
コンクリート様の塊の有無について	コンクリート様の塊など汚染源と考えられる物は見られない。	コンクリート様の塊など汚染源と考えられる物は見られない。	GL-2.18～2.48m : コンクリート様の塊 GL-2.74～2.88m : コンクリート様の塊

図 ボーリングコア観察結果 (No54孔)

